

平成29年度事業報告書

平成29年1月1日～平成29年12月31日

1. 第27回日米草の根交流サミット大会の開催 <定款上の該当条項:第4条>

開催地 : 奈良県内各地

開催時期 : 平成29年6月26日(月)～7月3日(月) (6泊8日)

参加者数 : 米国からの参加者 : 109名 (他にオープニング or クロージングのみの米国人参加者7名あり)
大会参加者総数 : 1,000名
(オープニング及びクロージングの式典、歓迎レセプションとフェアウェル・イベント、ホストファミリー、ボランティア、支援者、11の地域分科会でのプログラム参加者等を含む)

内 容 : 「第27回日米草の根交流サミット 2017 奈良大会」を2017年6月26日(月)から7月3日(月)にかけて計8日間、奈良県内の9市町村において開催した。奈良市および橿原市では2つの分科会を持ったため、地域分科会の総数は11となった。主催は、草の根サミット奈良大会実行委員会、CIE、CIE-US。

●奈良県での受け入れ体制

草の根サミット受け入れにあたっては、奈良県内に実行委員会が組織され、東大寺長老で奈良日米協会会長の北河原公敬氏が実行委員会会長に、また、奈良県知事の荒井正吾氏、奈良市長の中川げん氏が顧問に就任した。事務局は奈良県庁観光プロモーション課におかれ、同課の山中淳史課長が実行委員長に、委員には、それぞれの地域分科会のキーパーソン、また奈良市観光協会や奈良県ビジターズビューロー、奈良青年会議所等の関係者らが就任した。

●ローカル・ツアー (6月28日)

以下の4つのコースを提供。サミット同窓会(日本在住者)参加者、また前年のアトランタ大会に参加した福島県の葛尾中学校生徒らも参加し、いずれのコースも好評であった。

- ① 法隆寺と春日大社コース (35名参加)
- ② 大神神社、酒造と麵ゆう館 (24名参加)
- ③ 長谷寺と橿原神宮 (37名参加)

④ 依水園、奈良奥山ドライブウェイと春日大社（36名参加）

● オープニング式典と歓迎レセプション（6月28日夕刻）

オープニング式典は、東大寺の金鐘ホールで開催。北河原実行委員会会長、河野 CIE 理事長、アレン・グリーンバーグ駐大阪・神戸総領事などが挨拶。その後、ペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏による短いスピーチの後、中浜家とホイットフィールド家の間で恒例の地球儀の交換が行われた。また、それぞれの地域分科会のキーパーソンが、アメリカからの参加者を歓迎し、各地域の魅力や予定されているプログラムについての紹介を行った。式典後は、会場を奈良ロイヤルホテルのグランドボールルームに移し、歓迎レセプションを開催。ジェイソン・ハイランド米国臨時代理大使の挨拶に続いて、TOMODACHI イニシアチブの助成金で参加したジョージア州メーコン・ビブ郡の高校生 15 名が、公民権・人権に関するプレゼンテーションを寸劇とバイオリンの演奏を交えて披露。感動的な内容に会場から拍手喝采を受けた。

余興として、奈良県公式ゆるきゃらの「せんとくん」によるダンス、また琴の演奏も披露され、参加者達は奈良を代表する数々の料理に舌鼓を打ちつつ、楽しい時間を過ごした。

● 地域分科会（6月29日～7月2日）

大会3日目の6月29日（木）は、早朝に奈良公園の「鹿苑」で生まれてまもない鹿の赤ちゃんを見学した後、県内9つの市町村にて開催される11の地域分科会に向けて出発。3泊4日のそれぞれの分科会では、古都ならではの歴史、また地域に密着した文化に触れつつ、ホームステイを通じて奈良の日常生活も体験。工夫された濃いプログラムを通して、新しい友情も育むことができた。

< 11の地域分科会 >

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. 奈良市 | 2. 奈良フレンドシップ・フォース |
| 3. 曽爾村 | 4. 宇陀市 |
| 5. 桜井市 | 6. 高取町 |
| 7. 明日香村 | 8. 橿原市 |
| 9. 広陵町 | 10. 斑鳩町 |
| 11. 奈良県畝傍高校 | |

上記受け入れ市のうち、11番目の奈良県畝傍高校は、前述のTOMODACHI イニシアチブの助成を受けて参加したジョージア州メーコン・ビブ郡の高校生を受入れた。高校生達は、日本の高校の授業やクラブ活動にも一部参加。また、畝傍高校でも公民権・人権に関するプレゼンテ

ーションを披露した。3晩の宿泊は、畝傍高校の生徒のお宅にホームステイし、土曜日にはホスト・ファミリーと大阪まで出かけるなど、非常に楽しくも有意義な体験をしたという感想を受け取っている。

● クロージング式典&フェアウェル・パーティー (7月2日)

3泊4日の地域分科会終了後、7月2日(日)には、奈良市内の「奈良春日野国際フォーラム”薨”」の能楽ホールにて、アメリカからの参加者、ホスト・ファミリー、ボランティア、その他関係者が集い、クロージング式典が催された。北河原実行委員会会長、荒井正吾奈良県知事らの挨拶の後、各分科会のキーパーソンが、3泊4日の間に行われたプログラムの活動報告を行った。その後、前ワシントン州日米協会会長である川添眞一郎氏が、翌年のシアトル・ワシントン州大会を、ビデオを交えてアピールした。式典の後は、会場を”薨”の日本庭園に移し、戸外でクロージング・レセプションを開催した。アメリカからの参加者やホスト・ファミリーらは、「せんとくん」のお出迎えを受けて庭園に入場。レセプションでは、「あすか組」による太鼓演奏も披露される中、別れを惜しみながらも、参加者達は最後の時間をホスト・ファミリーと楽しく過ごした。

● ポスト・サミット・オプション・プログラム (7月3日～7日)

サミット終了後、オプションのプログラムとして、次の3つのプログラムを提供した。

- 京都ホームステイ 2泊&東京 14名参加
※中山貴恵 CIE 顧問がコーディネート
- 金沢&能登ホームステイと東京 10名参加
※魚岸志乃富 CIE 顧問がコーディネート
- 東京フリー 6名参加
- 京都フリー 7名参加

2. 第28回日米草の根交流サミット2018シアトル・ワシントン州大会開催準備

平成30年度の第28回日米草の根交流サミット2018シアトル・ワシントン州大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地：シアトル市を中心とした周辺14都市（15分科会予定）

開催時期：平成30年9月18日(火)～9月25日(火)

共催団体：ワシントン州日米協会、CIE-US

地域分科会：以下の13市・地域、また2つの学校で、合計15の分科会を開催することとし、準備を進めた。

1. シアトル市
2. ヴァンション・アイランド(島)
3. レッドモンド市
4. ベルビュー市
5. レントン市
6. オーバーン市・ケント市
7. タコマ市
8. レイクウッド市
9. オリンピア市
10. ポート・タウンゼンド市
11. セクイム市
12. エレンズバーグ市・キティタス郡
13. モーゼス・レイク市
14. タイイー中学校(ベルビュー市)
15. マウント・バーノン高校(マウント・バーノン市)

9月19日に予定しているオープニング式典と歓迎レセプションは、フェリーにてチーフ・シアトルの生まれ故郷であるブレイク島に渡り、そこに作られたティリカム・ビレッジにて行うこととした。

クロージング式典とフェアウェル・パーティーは、ワシントン湖の南に開発されているリゾート地にオープンしたばかりのハイアット・リージェンシー・レイク・ワシントンにて開催予定である。

宿泊ホテルは、最初の2泊はシアトル市内のザ・ウェスティン・シアトル、最後の1泊は、クロージング式典を催すハイアット・リージェンシー・レイク・ワシントンを予約した。

大会2日目の「オプション・ローカル・ツアー」には、以下の5コースを用意した。

- A. 「ボーイング工場見学」コース
- B. 「『ツイン・ピークス』とワイン&ビール」コース
- C. 「シアトルの廃墟の地下空間とセーフコ球場」コース
- D. 「日系アメリカ人の歴史とインターナショナル・ディストリクト」コース
- E. 「シアトルのビジネス」コース

大会終了後のポスト・サミット・オプション・プログラムには下記3プログラムを設定した。

- ① 山と海に囲まれたカナダ・バンクーバー(ホテル2泊)
- ② 全米でもっとも住みやすいポートランド(ホテル2泊)
- ③ 万次郎の足跡をたどるフェアヘイブンと古都ボストン

(ホームステイ2泊、ホテル2泊)

※協力：ホイットフィールド万次郎友好協会、ボストン日本協会

3. 第29回日米草の根交流サミット2019兵庫大会開催準備

平成31年度の第29回日米草の根交流サミット大会を、兵庫県で開催することを決定し、兵庫県国際交流課と以下の準備を行った。

開催時期：平成31年6月または7月とする（詳細日程は調整中）

共催団体：兵庫県実行委員会（事務局は兵庫県国際交流課）、CIE-US

オープニング式典&歓迎レセプション：姫路市内（予定）

クロージング式典&フェアウェル・パーティー：淡路夢舞台国際会議場（予定）

4. 第30回日米草の根交流サミット2020広域フィラデルフィア大会開催準備

平成32年度の第30回日米草の根交流サミット大会の開催地を米国側で探していたところ、フィラデルフィア日米協会より受入れ希望の申入れがあり、視察のうえ、開催地として決定することとした。

5. 情報の発信

1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。

ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。

草の根通信 90号(2月)

草の根通信 91号(6月)

草の根通信 92号(8月)

草の根通信 93号(12月)

2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行、準備

・ 2016年版発行(2017年2月)

・ 2017年版準備

3) ホームページ、Facebookを通じた発信

大会告知、ニュースレター、大会報告等を掲載した。

以上

公益財団法人ジョン万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター

平成29年度事業報告書 附属明細書

平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
- － 奈良大会募集パンフレット(英文)
- － 2017年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)